

## フィールド競技会に初めて参加される方へ

2025年2月4日版  
東京都アーチェリー協会 競技部会

### ○距離

フィールド競技会では、マークコース(距離を表示)とアンマークコース(距離を非表示)があります。

東京都アーチェリー協会で開催するフィールド競技会はマークコースで実施しています。

※以降、マークコース実施時のルールに限定して記載します。

標的と射距離は部門ごとに以下のようになっています。

標的の数 1ユニット 12標的	フィールド 標的面の 直径(cm)	射距離(m)	
		青色のペグ	赤色のペグ
		ベアボウ	リカーブ コンパウンド
3	20	5 - 10 - 15	10 - 15 - 20
3	40	15 - 20 - 25	20 - 25 - 30
3	60	30 - 35 - 40	35 - 40 - 45
3	80	40 - 45 - 50	50 - 55 - 60

### ○標的

フィールド標的面は80cm、60cm、40cm、20cm標的の4種類があります。

的の中心（インナー）は[X]ではなく[6点]です。6点、5点は黄色、4点～1点は黒色になっています。

### ○競技者の用具

- 【RC・CP部門】距離の指標を付けたプレートまたはテープ（サイトチャート）を弓に取り付けることができます。また、競技者がそれぞれの距離のサイト位置を記載したメモ等を、コースに持ち込むことができます。ハンドル・サイト・弦等に距離測定の助けになるような複数のマークを付けることはできません。（第302条5、第303条3）
- 競技会のコース内では、電子的通信装置（スマートフォン・携帯電話等）の使用は可能です。ただし、SNS等での競技普及に資する情報発信、または医学的症状のモニタリングに使用することに限ります。（第307条2）

### ○行射

- 行射はシューティングペグの手前、半径1m以内の位置に起立、または膝をついて行います。  
※アウトドアターゲット競技のようにシューティングライン（ペグ）は跨ぎません。（第309条2）
- 競技者AとCは左側、競技者BとDは右側から行射します。（第309条3）
- 1つの標的につき3射を行射します。（第311条1）
- 3mラインはありません。弓から矢が落ちた際に競技者がその矢に触れるができる場合、もしくはペグに対する両足の位置を動かさずに自分の弓で触れるができる場合に、矢の再発射が認められます。（第313条1）

## ○行射の順序および時間の管理

1. それぞれのグループは出場者リストより割り振られた別々の標的から行射します。

1~12 標的及び 13~24 標的の各 12 標的を、まとめてユニットと言います。

便宜上 1~12 標的を第 1 ユニット、13~24 標的を第 2 ユニットとし、行射は各ユニットを完了してから次のユニットに回ります。

例えば第 1 ユニット 2 番からスタートした選手(グループ)は、2→3→4→5→6→…→11→12 番まで進んだのち 1 番に戻り第 1 ユニット完了となります。第 1 ユニットでは 12 番終了後に 13 番に進みません。

同様に第 2 ユニット 17 番からスタートした選手(グループ)は 17→18→19→20→21→22→23→24 番まで進んだのち、13 番へ戻り 13→14→15→16 番で第 2 ユニット完了になります。

2. AB-CD・4 名グループの場合「AB 立ち-CD 立ち」→「CD 立ち-AB 立ち」を繰り返します。

※AB-C・3 名グループの場合は「AB 立ち-C 立ち」→「C 立ち-AB 立ち」を繰り返します。C 立ちは常にシューティングペグの左側から行射します。(第 317 条)

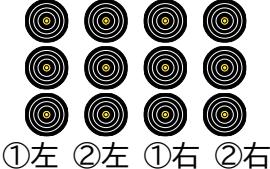
2. 行射する標的位置

・80 cm 標的：1 枚の標的に 4 名が 3 射ずつ行射します。

・60 cm 標的：2 枚設置の場合には、左側を A・C 立ち、右側を B・D 立ちが 3 射ずつ行射します。

・40 cm 標的：先射ち(①)の左立ちが上段左、右立ちが上段右、後射ち(②)の左立ちが下段左、右立ちが下段右を 3 射ずつ行射します。

・20 cm 標的：先射ち(①)の左立ちが左から 1 列目、右立ちが左から 3 列目、後射ち(②)の左立ちが左から 2 列目、右立ちが左から 4 列目の標的を行射します。この際、列の中の 3 つの標的に 1 射ずつ合計で 3 射行射しますが、どのような順番でも構いません。(第 318 条)

20cm 標的	40 cm 標的	60 cm 標的	80 cm 標的
			

3. 用具の故障が発生した場合、行射の順番を一時的に変更することができます。故障した用具を交換、修理するための制限時間は 30 分であり、制限時間内に復帰した場合にはその標的で行射するべき残りの矢を補充できるが、制限時間以後に復帰した場合はそのグループがすでに行射した数の矢を失います。医学的理由により競技が続行できない場合も用具故障と同様に扱います。(第 320 条)

4. 予選ラウンドの制限時間は 3 射 180 秒です。3 回目以降の警告については最高点削除となります。  
(第 323 条)

## ○得点記録

1. グループ内の役割は原則、以下の通りです。  
A 立ち：グループリーダー（1 グループ 3 名の場合はリーダーが的中孔に印を付ける）  
B・C 立ち：スコアラー  
D 立ち：的中孔に印を付ける（第 329 条）  
**（グループ内で話し合って、担当を変更することは構いません。）**
2. 矢が標的から抜かれる前に発見されたスコアカードの記載の間違いは訂正することができます。そのグループ内のすべての競技者の署名がスコアカードに必要です。（第 348 条 2）
3. **フィールドラウンド**では同じグループの競技者に得点の判定を求めます。グループ全員の多数決によって得点を決定します。判定が同数の場合、高得点とします。競技者による判定が最終決定となり、審判員は判定しません。（第 348 条）